

イッパン 夏合宿 (イッパン)

土井孝吉

まず、今回初めてサイクリング部夏合宿に参加し、思った
事を書くことにする。第一に、合宿とは、明らかに、部員が
同じ釜の飯を食うことにより、部員間の親睦を深めるのが主
目的である。しかし、本来サイクリング(ツーリング)とは単
独の考えでは、個人旅行とはその程度の大教内で受けるものと
思う。だから、東工大サイクリング部の合宿形式が、10人
内務隊の班にわけ、打ち上げのみ全員が集合して宿での相級
交換等を行なうわけである。この辺りから、また大教が何とぞ
ると思いが、細微してける。(大教については、一年生は
合宿というものを伝えるためには、目的といっても大教内は
合宿形態の思な、大教にふり分けが必要がある以上、やむを
得ないとも思える。) 第二に、大部分を親からもらってける
お昼にたよ、アいるおれおれ学生にとっては、ツーリングに
おいて、寝食及び自炊はかせない事だと思ふ。つまり、合
宿にのける無駄金の使用をどことん無放する必要がある。例
えばキャンピングをせず、ユースや民宿に泊まったり、昼食
として、食堂に入るとかである。たしかに、キャンピングをしな
ければ楽だし、合宿のメンバー間でゆっくり話しあえるまじ

の利益もある。確かにキャンプをすると、食事の用意、それがまると後しまつ、暗くなればすぐに眠ってしまつ、このような生活の繰り返しとなつてしまふ。しかし、話しをじっくりできる川が走ればいいが、みんなで食事の用意をしたり、テントを張ったりする様な共同作業というものを通して、自分と今何をすべきか考え、他人に迷惑をかけないにはどうするかなど、共同生活というものを円滑にする方法を身につけることが重要な一面だと言へる。(これについては、早く自身反省しなければならぬ部分が多々あったので、この場でみんなにあて言つておこう。) 前番さが長くなつたが、このあたりでやめることにする。

さて、アツハンの復命艦についてそのあつちしをこまかくおちねちと書くことにする。まず乗客は豊富としたわけであるが、SGB and チャー(名義期間中も多め2ヶ月以上にわたり下宿をし続けた人で、別名、とも木夕はがりをするので、「リモネーター」して実の名は、上原)そしてぼくの3人又、ユ一ガワは高橋とフリーマンをしていて、札幌で名刺し集金地へ行つた、どこか残りのメンバーであるイグアサ(通称)、奴(別名「キスカ」こと有職)、生方(本名化原)の3人は国鉄駅ユース(集材)の管白を断つた、軒の下で

一夜をすごしたとのことである。そこでイゴコ班としては、
合宿スタートの朝食はうんと奮発し、豊後駅の前で豊さ出し
をしてオニキリを作り、ペルーを振り掛けオカシに後入をわ
けてある。そしていざ出発！何と土方はフロントバックを忘
れて行ったのである。いやはや先が思いやられるなあ。サロ
ベツ原野を走り、周りはあつたがかりからの盛り風にハイバ
ースで終りへ。とがし風邪気味の音がかり、何と初日にして
民謡にハマることになる。当然ここでは「リッパ、リッパ」
とが「最初で最後の民謡リッパ」（言葉はうろたわりのあ
る）などという金話や文あされた。そして“オの、コサン”
なるすしご垂線を見た。又自国は、ペダル、イローンなどを
外し、チェーンカーで自転車をつなぎ、不用な荷物は箱行袋
二個に入札駅の一騎乗り前まで大きくとち一個一月100円で
預かってもらう（礼文へ出る、といつても当然イゴコ班、食
料はほぼ二日分持、て礼文へ残ったわけである。何と三日目
は朝4時迄、6時迄、礼文の8時開ロマンヌコースを歩
きその日のうちに利尻島へ、途中、チャーと行くの野營の気
路が入る。大胆にも利尻山に予夕ック（キャンプ用品はそん
ながフイアの登山である）くたくたに寄りながらも頂上へ、
そこからのながめは、途中の天候とは全く異なる、サロベツ

原野はもちろんの事大層や何と博識なで居え、大いに悪戯と
し下山、疲勞のため、自炊せず、利尻釜などを食し、ユーク
アのすすめで、ワリツカ(鴨刺)を飲み、SGBに「帰りに
てきまけのが、この餅。捲らけ！」とどなるれてしすった、
ち日目に入り、利尻からの帰りの船の中で、イゲアオガマス
をかき、こればかりみんなが料理され、土着の列車マス、土
方と蚊によるマスの籠裏及び他人を(被害者は多くとイゲア
オ)服、マいる船でのマスや、有室マスなどいろいろの船態
をとるまらになり、キヤ一の作用もあり、結果は常にシモネ
タになる台番と云ってしまつたわけである。これほどでかき
社文、利尻における自炊率に束らず、すべて夢いたというこ
とはシビターではあつたが、コースとしては有知にまわれた
と思う。自炊車に同航していた。あまり所足なコースをと
れなかつたことだろう。権内で芝割が起つた。一つは、何
とテントのポールが曲が、てしまひ、他の一つは、ユークア
のキヤリアの破壊である。船が同航し、宮内野を経て、何
と平地を道で前進不可能となり、押し入ったのである。そ
れを夫一を100mの至間にありてである。原因はすこしい白川
風、そのための砂ほこりが我々めがけて吹きつり、その痛さ
といえは何とも書えな御持と云つた。～有人ちって。その日

は浅茅野回鉄路ユース、一帯近沖橋行をして旭川、ここで大
金5000円でホールを賣ら、イガアオは何と実験のレポートを
郵送する、ぼくは取をかさがけた。(詳細は書くわけにはい
ぬ!)ともかく大雪を通り、糠平へ、ここまですごい地盤が
絶と、頭は真っ白になるし、土をどつフロントヤリ了の固
定ネットを踏とし、スポーツを又本を折るしまつ、夜は夜で
雨に降られ、SGBには大変迷惑をかけたしまった。流は何
と聞いても雪の上で眠ることかてきた。それは何と上土腕の
靱有妻貴女の運物の二階なのである。夕飯にはジンギスカン
をもろ、たりもしたし、土着の子供達とも楽しく遊んだり、
次の日の朝には、何とも不思議な熱気球なるものを見た、そ
の飛行を見てエーザリ曰く、「あれ〜、何もなければ飛んで
る!」まさしくそのとおり、異様とも云える。次は、予定で
は登るはずであった旭開寒岳、しかしチャーの発言「山は登
るものじゃなく、遠くから見るものだ」によりとりやめ。料
亭湖(、これは非時に発見されていてつまらなかつた)、泉鏡
路湖(湖面の色が非時に風情である)、麻園湖(湖前も非
さり見えなし、すごい霧の麻園湖を見た)をして歸村に行く。
ここのキャンプ場では入村料などもとるが、夜寝くまで
(我々にとってだけかむしれぬが)スポーツからフュー

フランスの田舎を泳ぐ、不審たうたうでした。に、くき根室前
校め、本庄を、同じ所て二泊する予定がわ、たず、こんな
キャンプ村は二日もあればと次のキャンプの場所を換し
ていると、学校の校舎でキャンプする[!]ことになって、取り立て
の牛乳をくれたいた、これまた大いに感激したわけである。
最後は根室半島、網走川畔、ここで5400円を出して鹿肉
を食べ、このお返しと昼食をこがった。これで我が社の
合宿は終了となる。SGB、チャー、ユーオワの3人はフリー
ランとしたが。(チャーの飯袋には異色!)

各宿を通じたの反省だが、人数が多いこともあって、あま
りにもキャンプ場を頼りすぎたと思う。私事だが、秋休みに
友達と又んで紀伊半島に行、左様など、海岸、河原、川の辺
には作機現場の小屋、梅崎な隣に舟跡の途中の重機など、所
がまあキャンプしなした、これでも楽しくすごしてきました。
水などを持ちタンとボトルのみで食料も川などがない場合は
洗剤など使わずフキンで拭くだけ、さもないと言われれば
うらもしれなすが、かきんてさもないこともないのだから
このようなキャンプもいいものかと思うのだが、一。そして
当然ばくもだが、自分から友人で仕事を探すべきの意気込
みがあった。コニス決定はみんなて話し合ひ、その場その

橋で踏鞴の交にコースを求めて行ったが、この所は良がっ
たと言える。又、今回の名酒で、自來水とけうもの何と地
華の良いものかと、ごめいめと感しました。というのま、判
断、礼文を歩いて来て、一日の距離が全く伸びたので、疲れ
だけほどっとかきよせてくるからである。